

大学生の養護性に関する研究

—親子関係と精神的健康が与える影響—

○大野舞純・首藤祐介

(広島国際大学心理学部心理学科)

問題

養護性とは相手の健全な発達を促進するための共感性と技能のことである。親から「養護された」認識がある人は、親になる準備性が高いことが示唆されているため（棚澤ら，2009），養護性の発達には親子関係が影響すると考えられる。

また，神経質，ノイローゼ傾向のある人の養護性は低く（棚澤，2012），神経症的傾向が高い人の精神的健康は低い（門田・寺崎，2009）。従って，養護性は精神的健康と関連が考えられる。

親子関係と精神的健康も関連があると考えられる。親から支持的な関わりを受けている人は幸福感が高いことが示唆されている（大島，2013）。

従って，養護性の発達には親子関係が直接影響する経路と精神的健康を媒介して影響する経路の2つが考えられる。本研究では媒介モデルの検討，直接効果と間接効果の比較を行う。養護性に対する被養護体験の影響力の性差が示唆されているため（棚澤ら，2009），男女別に検討する。

方法

大学生 256 名を対象に質問紙調査を実施した。有効回答数は 204 名（男性 110 名，女性 94 名，平均年齢 18.31 ± 0.52 歳）であった。

質問紙は，養護性尺度（棚澤ら，2009），精神的健康を測定する主観的幸福感尺度（伊藤ら，2003），親子関係を測定する学生用ソーシャルサポート尺度（久田ら，1989）で構成されている。

結果

親子関係を独立変数，精神的健康を媒介変数，養護性を従属変数として、Bootstrap 法による媒介分析（サンプリング回数 5000 回）を行った結果を Figure 1 に示した。上段は男性，下段は女性の結果である。男性は母親のサポートから精神的健康 ($\beta=.36, 95\% \text{ CI} [.082, .438]$)，精神的健康から養護性への効果 ($\beta=.29, 95\% \text{ CI} [.007, .078]$)，母親のサポートの全体効果が有意であった ($\beta=.34, 95\% \text{ CI} [.010, .61]$)。間接効果は母親のサポートでのみ認められた ($\beta=.11, 95\% \text{ CI} [.002, .029]$)。女性では，父親のサポートの直接効果 ($\beta=.43, 95\% \text{ CI} [.013, .060]$)，父親のサポートの全体効果が有意で

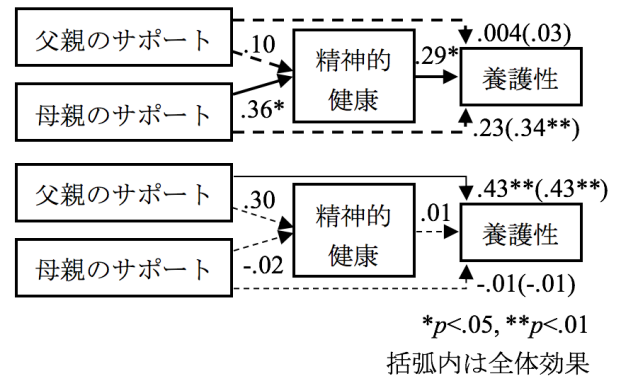


Figure 1. 媒介分析の結果

あり ($\beta=.43, 95\% \text{ CI} [.012, .061]$)，間接効果は認められなかった。

考察

異性の親のサポートが養護性を高めることが示された。異性の親からのサポートの効果として，異性が子育てに取り組む良いイメージが形成されることが考えられる。異性の親からサポートを受けることで，将来のパートナーも子どもにサポートをすると考え，子育てへの肯定的感情がもたらされた可能性がある。また，異性の親からのサポートは異性全体への肯定的な印象の形成にもつながると考えられる。子どもを育てるということは，交際や結婚を前提としており，異性への悪印象のなさが養護性を高めたと推測できる。異性との相互作用の不安は恋愛や結婚への期待を低めることが指摘されている（富重，2000）。

男性においては，精神的健康は養護性を高めることが示された。養護性には自信や自己効力感の要素が含まれていることが示唆されており（棚澤・岩立，2011），精神的健康にも自信や前向きな気持ちが含まれているため，精神的健康によって養護性が高められたと推測できる。

男性は母親からのサポートで精神的に健康な状態になることで養護性が高められ，女性は父親からのサポートがあれば養護性が高められることが示唆された。男性は女性に比べ，子育てに積極的に取り組む必要はないと考えやすいが，自分がサポートを受け，精神的に健康な状態になることで子育てへの意欲が高まる可能性がある。